

那珂市議会 産業建設常任委員会記録

開催日時 令和8年4月20日(月) 午前10時
開催場所 那珂市議会全員協議会室
出席委員 委員長 寺門 勲 副委員長 榊原 一和
委員 大和田和男 委員 萩谷 俊行
委員 笹島 猛 委員 福田耕四郎
欠席委員 なし

会議事件説明のため出席した者の職氏名

なし

職務のため出席した者の職氏名

議長 大和田和男 次長 海野 直人
主査 渡邊 荘一

会議に付した事件

(1) 調査事項について

議事の経過(出席者の発言内容は以下のとおり)

開会(午前10時00分)

委員長 皆様おはようございます。

本日は産業建設常任委員会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

開会前にご連絡をいたします。

会議は公開しており、傍聴可能といたします。

また会議の映像を庁舎内のテレビに放送します。

会議内での発言は、必ずマイクを使用し、質疑答弁の際は簡潔かつ明瞭にお願いいたします。携帯電話をお持ちの方は電源をお切りいただくか、マナーモードにご配慮をお願いいたします。

ただいまの出席委員は6名でございます。

欠席委員はございません。

定足数に達しておりますので、これより産業建設常任委員会を開会いたします。

職務のため、議長。及び、議会事務局職員が出席をしております。

ここで議長よりご挨拶をお願いします。

議長 はい。改めましておはようございます。

本日は閉会中の産業建設常任委員会ご参集賜りまして誠にありがとうございます。

そして先日はですね、所管である静峰ふるさと公園での八重桜まつりが盛況に開かれました。結構にぎわっていたんじゃないかなと思います。そういった観光なんかという

のも、これから、我々産業建設も話し合っていかなければならないのかなと思います。

今日は、調査事項ということで長きにわたる調査ということで皆様の忌憚のないご意見、皆様から賜ればと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

委員長 ありがとうございます。

これより議事に入ります。

調査事項についてを議題といたします。

当委員会で今後調査等を行いたい案件について、委員の皆様にご意見を伺ってまいりたいと思います。

よろしく願いします

大和田委員 産業建設常任委員の前委員が4人残ってるということで前回調査事項に道の駅も前々回もそうでしたか。大分調査を進めて様々な要望を市の執行部のほうにも伝えました。

そういった中、まだ、回答を得られないものもあるかもしれませんが、大分、道の駅については踏み込んだところまで、一旦要望を出したなあとしますので、その点についてはちょっともう1回なんて言うか仕切り直しで今後、執行部が出してくる。もちろん第三セクターなんていうのはまだまだ全然先に進んでいないというところもありますので、ちょっと置いていて、今度は何ていうんでしょう、道の駅ができます。

これ、道の駅だけでこれからの那珂市、いいのかというところにまで踏み込んで、ちょっと調査事項のほうをやっていきたいなと私は思っています、まず、一つ目は例えば道の駅ができました。関係人口が増えます。そのあと、どうするのかっていうとやっぱり人口減少の中、人を増やしていかなければ定住人口も増やしていかなきゃならないというところで、線引きなんていうのもあるかもしれない。

また道の駅ができると菅谷飯田線が活性化してくるっていう中で、まだ菅谷飯田線の周辺あたりも全然、家も張りつけられなければ商業も張りつけないっていうので、規制の厳しい農地ですとかね、調整区域とか規制の厳しいところがまだまだあるというところでそれではたしていいのかというところもあります。

また、数年前に区域指定なんていうのもありましたが、そういったところも、何ていうんでしょう。見直しではないですけども果たして実効性が高かったのかも、検証していかなければならないです。

また、せっかく道の駅ができましたという話の中で、産業用地でしたっけ未来法が適用できるような産業用地20ヘクタールも確保ができているっていう中で、全然話も進まない。言うなればインター周辺の開発っていうのがもう進まない。それを核として、定住人口を増やしていくっていう、いわゆる都市計画、マスタープランになってくると思うんですけどもそういったところを調査、研究して、道の駅を中心に那珂インター周辺

を開発しながら、定住人口をどう増やしていくか。

幹線道路、あと菅谷市毛線も多分今度開通されるっていうところで、その周辺も、商業用地としてできるのかっていうのは、できないところも、やっぱり一部、ありますので、そういったところも、30メートル以内は用途変更もできるんじゃないかとかそういったのも調査研究ができるんじゃないかなと思いますので、ちょっとは大きく那珂市を上から見て、そういった調査研究ができればいいんじゃないかなと私は思いますが、どうでしょうかというところです。以上です。

委員長 ありがとうございます。

ただいまの大和田委員のほうから、道の駅については、大分、調査をしてきた。

参考に令和4年の6月から道の駅についてということで、産業建設では、調査事項を進めてまいりましたけども、今回は違った視点で、角度でっていうか、そういった感じでご意見がありました。

大和田委員 道の駅を全くしないっていうわけでもなく、じゃ道の駅できました。もちろん中身もしっかりしなきゃ経営もしっかりしなきゃならないというところはやっぱり、大きな柱である調査事項というわけじゃなくて、やっぱり語ろう会なんかも通しながら、生産者の意見を聞くですとか、もちろん第三セクターがどんなふうになっていくかっていうのもやっぱり引き続き産業建設では、調査というより、勉強とか人を呼んだりいろんなことはしてあって、その辺も道の駅を含め本当にインター周辺も開発しながら、道路もできますその周辺はっていうのを、幅広く、道の駅も含めて幅広く調査研究、那珂市全体の都市計画の調査ができればいいのかなと私は思います。

委員長 はい、ほかにございませんか。

福田委員 今の大和田委員の考え方、私もやっぱり同じような考え方なんですけど、道の駅を含んだいわゆる那珂インター周辺開発、これはもともとは、これなんだよねテーマは、その中の一環としていわゆる道の駅ということだったんですから、そういう意味では道の駅っていうのは大体煮詰まってきた。

今現段階でいうと、なんだ、住民投票というようなことが一部報道されたりあるいは我々も資料を手にしたりしていますけど、それを含めたいわゆる道の駅を含めた那珂インター周辺開発ということを重点的に今後調査研究をしていきたいなど。

その中の一つとして、いわゆる基盤整備、いわゆるインターから国道118号は4車線化がこれ、もう既に決定してもう測量買収も終わっている。残念ながら、ひたちなか市に行くこの道路1.8キロの区間、これがその先はきれいにできているんですよ。しかも、ひたちなか市だけを見てもね、常磐線の跨線橋、これも立派にできましたよね。

残念ながらずーっと来て、そこまで来るっていうと、片側1車線、あんまりないんですよ、これね、今は、我々がいろんなところを歩いてね。インター降りて僅か2キロぐらいは、いい道路だった。その先いったら細くなっちゃった、そういうところはたくさん

あるんですよ。ここは逆なんです。インターを降りて狭い、少し走ったら今度はいい道路。ちょっと何か。要するにあんまり例がないような、だからそういうやっぱり基盤整備、インター周辺のね、そういったことを含めた幅の広い調査研究をしていきたいなと。こういうふうに思っております。

それはもう一つ理由としてはね。今から二十七、八年前かなあ。那珂町の頃かな。議会も那珂町議会も特別委員会設置して、このインター周辺開発とそれから向こうの、那珂西部工業団地、これの調査研究をした経緯がありますね。

これえらい金かけて、我々もいろんなところ視察も行きました。当時小宅町長の時かな。今でも忘れないですけども青森県のあそこは八戸からちょっと三沢行ったところ、あるいは新潟県の上越市かな。今で言えば、当時ね、直江津って言ったかな合併前は、直江津って言ったような気がしたんだけど、それは田中総理大臣がいろいろと手を加えてやった開発。そこも研修に行きましたね。

そういうふうにな、このインター周辺については、過去、えらい経費もかけている。あるいは調査もしている。議会として、それから、執行部独自でインター周辺の開発っていうこともやりましたね。独自で。それとあと民間もやった。民間の業者がインター周辺ということで、やっぱり調査やったでしょう。3回やってんだよね。

今でも忘れないですけどね、我々も一般質問もやった。小宅町長かな。あの頃は核融合の物流基地にするんだと。こういう答弁をした。トンビに油揚げで行っちゃったけどね。そういうね、いろいろもろもろのいろんな当時のことがあるんですけど、今回は、みんなでそういったちょっと幅広い、最初の今回の那珂インター周辺開発というこのテーマを調査研究をしたいなとこういうふうに思います。

以上です。

委員長 ほかにございませんか。

笹島委員 今の福田委員が言っていた、具体的にどういうあれですかそうすると。

福田委員 インター周辺開発といたっていろいろあるじゃないですか。具体的にまず道路あるでしょう。それからやはり共存共栄をしていくのには、例えば道の駅をとというのには、まず地目がちょっと、今の状態では無理かな。ですからもろもろのことがね、山積していると思いますよ。

そういうことをみんなの考え方、それによって調査をしてく。ちょっと幅広いかな。

だからその中で、その中で当委員会である程度絞って、そしていけばいいんじゃないですかそれは今後の課題だね。あとは考え方。以上です。

笹島委員 今の福田委員が言ってたですね。私も前から言っていますね。インター降りてね、国道118号のほうだけ4車線化して、挙げ句の果て、りんりん道路、自転車を使うと。約30億円使うというふうに、これはそれで収まらないですね。じゃ左側の今言っていた駒潜のほうまでが、先ほど言ったように何の整備をされてない。実際、左側のほうのほう

が、要するに通行量が多い。

先ほど福田委員が言っていたとおり高場の陸橋なんですよ。長年時間かけてやっとひたちなか市のほうは立派にできていて、駒潜のJAの直売所からも非常に2車線で急に危ないですね。正直言って。4車線から2車線。変形道路になっていますよね。ああいうところほんとに。国道118号のこちらに車が通行量がないとこばかりやっていて、逆のほうにやっってくださいってもう長年頼んでですね、やっぱりその一つ。調査研究しなきゃいけない。

それから、道の駅も箱物つくったけど、中身はどうなっているんだっていうこれから我々もウォッチしなきゃいけないと思うんですよ。

ただただ執行部は作れば良いというふうに見受けられるんですね。作ったら万々歳だと、そんなにうまくいくわけない。

なぜかっていうと先ほど大和田委員が言ったとおり、第三セクターがまだ決まっていな。直接運営するのは第三セクターですよ。我々じゃないですよ、役所の職員じゃないですよ。そういうことも、やっぱりきちんとやっていかなきゃならないんで、挙げ句の果て、今度は住民反対運動ですか、住民投票が今きているっていう、非常にごちゃごちゃになって、我々主導権をもってですね。リーダーシップとしてやっぱり産業建設常任委員会として、やっぱり先ほど福田委員も言っていたとおり、周辺まで大きくさせる必要はないですけども、やはりある程度、的を絞った、先ほど言ったように道路環境の整備ですね、それから道の駅のこれからどうなるんだと。

私2点に絞ってやっていったらよろしいんじゃないかなっていう、はい。以上です。

福田委員 加えてね。もう1点だけここであれしたいんですが、今、東海原発再稼働という、いろいろ、注目されてますね。そこへ来て、よく避難場所に行くのにはどこを歩いていくの。道路じゃないの。避難道路。避難道路が整備されてなくて、避難場所ばかりにこだわってるのは何なのあれは。

そういう意味でも、例えば、ひたちなか市の住民だったら、例えば何かあった場合、原発がね、何かあった場合に、向こうの海のほうの高速を利用しますか。あるいは那珂インター利用しますか。あるいは水戸北インターを利用する。大体こっちへ来るのは、海の方へ行かないだろう。避難するのにね。そういう意味で言ったらば、この1.8キロの区間っていうのは、大事な避難道路だよこれ。大事な避難道路ですよ。そう思わないですか。

今は避難場所。今度、那珂市でも避難場所が今度変わったよね。いわゆるその1人の面積が広がったから、避難場所。あれは日光市のほうだったろう。だからなおさらこっちは道路としては、利用するんじゃないですかねえ。

こういうそういうね、もろもろ考えていくと、この道路っていうのは、1番先に考えなくちゃなんないんだよ。あれはね、私からいうと、道の駅より先ですよ。基盤整備が

先じゃないですか。

これが行政のやるべき仕事ですよ。そういう意味で、加えて申し上げます。以上です。
萩谷委員 大和田委員から、福田委員からありましたけども、やはりどれを総合的にやっても、今いったように道路が優先だと言うかもしれませんが、どれをみなさんと話し合っ
て、優先順を決めて、幅広くやるということは、福田委員が言っていることと思うん
ですよ。

だから優先順位をどう決めて、幅広くですね、最初に出たように、調査していくと、
いう形でこれから2年間ですね、やっていくのがいいのかなと思います。

また道の駅も出ましたけども、やっぱりいろいろね、それらも含めてね、優先順位を
どれか。ということですよ。

大和田委員 私もその道路が非常に重要であって、道の駅がもうかるとかもうかんないとかっ
ていう話がすごく先行して、今もう、住民投票の話もそういう話も出てきてると思うん
ですけど、やっぱり道路を整備して、それが道路が単なるバイパスではなくて、その場
合その道路ができてその周辺に店なりなんなり張り付けられるような、そういったそれ
こそ規制を緩和して、そうすれば事業者が来るでしょう、商売商店が来るでしょう、住
民が店出してもうかるでしょうと。そういった単なるバイパスだけじゃなくて、まちと
してその道路をつくって周辺にそういう、家なりなんなり張りつけるようなそういった
規制の観点からも調査をしていくことも、それが道の駅の相乗効果にもつながるという
ことで、話し合っていければなと思うんですけども。道路はすごく重要だなと思うん
です。単なるバイパスにしないと。

笹島委員 何度も言っていますけど、先ほど言ったとおり、やっぱり道の駅つくったのは結構
だけど、じゃ、道の駅の買物はどこからくるんだと、買物に来るのはね、国道118号の向
こうから常陸太田市とか常陸大宮市とかなんかじゃないですよ。やはり消費者がたく
さんいるところはひたちなか市ですよ。これ道路整備すれば、今まで20分かかった15分
10分で来れるわけですよ。だから、そういうことも、まず整備を第一にやんなきゃいけ
ないんですよ、もう道の駅つくるのは結構ですけど、そんな整備をやらないでね、ただ
つくりましたっていうそういう時代じゃないんですよやっぱり。

周りの環境をよくしていく、一緒にやっていかないといけない。それを何でこの市役
所っていうのは逆のほうをやってるのかと、4車線化をね、こっちでしょって俺何回も
言っている。何も言うこと聞かないんだよね。腹立ってしょうがない。それでよく道の
駅つくるとかって今までよく言ってるなと思っている。ぜひともマストで、それをお願
いいたします。

副委員長 すみません先輩方のご意見にちょっと物すごく圧倒されまして、そもそも昨日まで
は道の駅というところからちょっと頭から離れなかったんですよ。

令和4年に道の駅の整備、6年に道の駅、令和7年道の駅の運営と段階的に、結局当

委員会で調査を深めてきた流れでしたので、やっぱりその流れがいいのかなっていうふうについさっきまで実は思っていた最中です。

やっぱり大きな流れで言えば、道の駅インター周辺開発っていうことですから、もちろん福田委員の言われたことが実に僕は今、刺さってしまった。あとは最後に言われた道の駅開業に向けてね、やっぱり周りをやっぱりいろんなものを開発していかなかったら何の意味もない。相乗効果が生まれないってところを踏まえて考えると、インター周辺を核とした、地域経済のシステムの構築ってところがやっぱり1番大きなその視点ですよ。

その中から今の道路の話であったりとかっていうところは出てくると思うんです。それは今後のやっぱり課題っていうことでね、その流れでやっぱり調査研究していくのがいいのかなというふうに私は思いました。以上でございます。

笹島委員 いいこと言うんですけど、今言った余り膨らまさないでね、道の駅これから令和10年に向けて着々とやってくわけですよ。もうとめられなくなっています。

やっぱり我々は、やはりある程度調査して、やっぱりある程度指摘しなきゃいけないのが一つ。それから周辺整備、これ本当にマストでやらないと、その次の次の次のステップにはいかないんですよ。ですからこの二つマストでやってほしいと。道の駅と周辺道路の整備、この二つ。よろしく願います。

福田委員 私はもっと幅広いほうがいいと思う。それはなぜかっていうと、那珂インター周辺開発ですから、開発ということには、もっともっと幅広くてもいいのかな。どこまで調査研究が調査できるかっていうのは、これからの課題としても、やはりもうちょっとこうボリュームを持った調査をしていきたいなど。私はそういうふうに思っている。その中のいわゆる優先順位っていうのは、これから当委員会でそれを決めていく。これでいいんじゃないですか。以上です。

大和田委員 私もそう思ってます、やっぱりこう、那珂インターも重要ですね、次の周りの道路ももちろん必要だと。必ず道の駅の話にも間違いなく突っ込んでくると思うんですよ。そういう話が出てくると思うんですよ。なので、もしかしたら国道118号の瓜連のほうまで話がずっと出てきてね、うちの堀の内のほうまで山のどこじゃどうすんだってそういう話もちろん出てくると思うので、本当に先ほど副委員長がおっしゃったそこを核としながらも地域経済、そういった開発は、那珂市全体の都市計画まで拾うかどうかわかんないですけども、そういった形で正副委員長でまとめてあげていただけるといいかなと思います。

副委員長 まだ私がちょっと言うのもなんですけどまとめちゃうのもおかしいですけどやっぱりそうするとインター周辺を核としたこの地域経済ですよ。いろんな意味で今、笹島委員が言われたもちろん道路もそうだし、道の駅もそうだしいろんな大きなところの流れから、これから優先順位を決めてって、続いていくってというような流れが、皆さんの

多分、総じた意見かなというふうに思いますので、そんな感じですかね委員長。

委員長 ここでちょっと暫時休憩いたします。

休憩（午前10時29分）

再開（午前10時40分）

委員長 再開いたします。

ただいま各委員のほうから様々な意見等が出ましたので、こちらの意見等を委員長と副委員長で、この後まとめさせていただきますので、皆様方に後日、LINEWORKS等でお示しさせていただきますので、その際、ご覧になっていただいて、また次回等に協議してまいりたいと思いますのでよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ声あり）

委員長 ありがとうございます。

ほかに何かございませんでしょうか。

（「なし」と呼ぶ声あり）

委員長 分かりました。

本日の案件は全て終了いたしました。

以上で産業建設常任委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

閉会（午前10時42分）

令和8年4月28日

那珂市議会 産業建設常任委員会委員長 寺門 勲

令和8年4月21日

寺門委員長と榊原副委員長と協議の上、調査事項を以下のとおりとした

令和8年4月22日 委員へラインワークで通知

調査事項要旨

那珂インターチェンジを核とした周辺整備について

- ・那珂市の都市計画について
- ・道の駅を核とした周辺の地域振興について
- ・市内の主要幹線道路整備について
- ・道の駅の運営について